

浜ゴムエンジニアリング CSRLレポート

事業内容: タイヤ生産設備の開発・製造・稼働支援・オーバーホール事業
敷地面積: 2,700m²
従業員数: 47人 (2011年4月1日現在)
所在地: 〒254-8601 神奈川県平塚市追分2番1号横浜ゴム株式会社 平塚製造所内



社長ご挨拶



高山 章久

浜ゴムエンジニアリング(株)は、環境技術・省エネ技術から学び、徹底したムダ取りの思想と技術の追求を活動の軸としています。現地で組み立てる設備作りを目指し、ネットワーク協業内製化およびキットユニット化施策を通じた設備と人づくり活動を推進しています。

さらに、東日本大震災から学んだリスク管理および水害対策を加味し、解体・分別しやすい視点からの設備構造の具現化に向け、国内・海外ネットワーク協業内製化活動を基本に、

従来の仕事のやり方を変え、事業継続活動を加速していきます。

【ものつくりの考え方(生産設備の視点から)】

地域別最適生産規模工場への設備作りを基本におき、設備の小型化・シンプル化・効率化を活動の軸として、現地化に向けての新たなキットユニット化施策の設備作りを目指します。

なお、スピード感を持って現地化を進めるためには、目前だけではできず、さらなるネットワーク協業体制の拡大と強化、そしてG・生産本部との連携が必要となります。

環境経営の推進

環境方針

基本方針

徹底したムダ取りの思想と技術の追求を通じて、現地化設備の小型・軽量化を目指す!

行動指針

- ・素材から切屑を最小にする分別しやすい設備・治具づくりを実行する。
- ・環境側面の視点から設備づくりにおけるリスク管理を実行する。

省エネルギーの取り組み

国内生産規模での節電対策、海外進出でのインフラ面の制約の中で、特に「エネルギーの使い方」に着目して、「購入電力量を半減する」とか「停電しても加硫時間だけは補充する蓄電方式」など、小規模工場作り設備をモデルに、小型、高効率、ユーティリティユニット化、産業用モータへの高効率規制(2015年)に合った動力の選定・照明のLED化等、既納設備でのムダなエネルギーを見つけ、工場コンパクト化に提供できる設備作りを設計段階から取り組んでいます。

2011年度の取り組み事例・2012年度取り組み計画

「環境技術・省エネ技術から学ぶモノづくり」をスローガンとして、日々の業務で具体的に実践しています。

①電力節電対応

節電対策にいち早く取り組んで、成果を挙げています。

- ・エアコンの使用制限、照明(自然採光、省エネタイプ照明)、冷蔵庫使用時間の制約、グリーンカーテン、レイアウト変更、不快指数計を用いた管理など

効果: 対前年比 電気量▲38.9% CO₂削減量▲7,590kg

②水の管理

- ・8月から単独の水道メーターを取り付け、水管理を開始し、改善への見える化を実施しています。

③CO₂削減への意識付け活動

- ・各々の活動が結果CO₂発生の数値を認識する意識活動

④廃材、金属切屑削減活動

- ・金属切屑やハニカムによる消音器や室外機遮光板、冷気ファンを複製、また、床材への活用を検討しています。
- ・ハニカムおよび切屑廃材を活用してエアークリア音の消音器を開発

⑤廃棄物削減取り組みを強力に推進

- ・サトウキビから糖分を搾しぼりとったあとの、廃材を用いた紙ベースをウェスの代替に活用しています。

⑥ゴム屑の活用で、交通ポールを作製し、東日本大震災被災地へ無償提供しています。(社会貢献)

⑦生物多様性保全

- ・北海道霧多布湿原保全プロジェクトに参画し、東日本大震災の津波の影響によるゴミと海岸の汚れ清掃に参加しています。

⑧東日本大震災復興ボランティア活動

- ・2012年2月8~12日に宮城県気仙沼大島でのガレキ撤去、いかだ用道具製作に参画しました。



⑨設備のキット・ユニット化施策による物流コスト削減活動

- ・設備の設計段階から出荷梱包の数量、質量、面積、容積の最小最適化を視野に入れて検討しています。

(例:設備1)トレーラの不要、20'DRYコンテナ1台分減により、輸送エネルギー消費量が96%となり▲4%削減している。またCO₂削減量も0.177t達成しています。

- ・生産設備の試作・実験機
遊休設備部品・徹底した市販品の活用・段ボールによる外観検証
- ・加工素材屑率削減

素材材料見直し・素材ルートからMIN化をねらう

- ・物流コンテナ・車両にあわせた設備外形の整備
設備の小型化を基本として設備外形をはじめから物流視点で制約する
- ・市販品の活用
徹底した完成された部品・備品活用による加工のMIN化